

令和8年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立赤松小学校

4月から5月にかけて、文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童・生徒の学力や学習の状況を把握・分析し、教育の改善を図るとともに、児童・生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力と学習状況の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

調査期日 令和8年4月23日（木）

（注）質問調査については、オンライン方式（CBT方式）のため、調査日を分散して実施

調査の対象学年 小学校第6学年

調査の内容

（1）教科に関する調査

国語、算数

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
- ② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
調査問題では、上記①と②を一体的に問うている。

（2）質問調査（1人1台端末を用いたCBT方式）

児童生徒に対する質問	学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査
学校に対する質問	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

教科に関する調査結果及び考察について

・全国学力・学習状況調査は、小学6年生及び中学3年生を対象に、国語、算数・数学、英語について実施されています。

・また、調査問題は、各教科の一部の内容について出題されているものであり、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり、「学校教育活動の一側面」です。
したがって、調査結果を見る際には、この点をご理解いただいた上で、ご覧ください。

質問
調査

佐賀市学校教育ビジョンに関わる設問より（キーワード：自律・尊重・創造・主体性・当事者意識）

《質問領域：主体的・対話的で深い学び》

（注）数値は「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」等、肯定的な回答の割合（％）

質問 番号	質問事項	本校 (%)	全国 (%)
39	前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた	81.7	77.6
42	学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている	88.7	85.7
46	授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にしてお互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる	94.8	91.4

本校の調査結果 ※◎（強み）、●（課題）

◎たくさんの児童が自分で学び方を考え、主体的に課題解決をしている実感を抱いています。

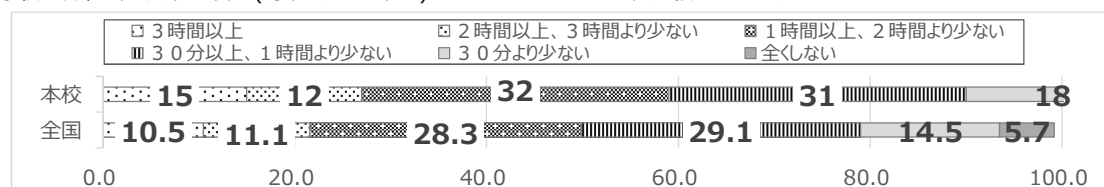
◎多くの児童が、友達と話し合うなど、互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいます。

●理解が不十分なことをそのままにしまい、授業がどんどん進んでしまっていることがあり、「できた」と思えるフィードバックを行い達成感を味わえる場が必要です。

《質問領域：主体的な学習の調整、学習習慣》

22	分からないことやわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	85.2	79.4
43	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	75.7	78.4

23 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日) 1日当たりどれくらいの時間勉強していますか



《質問領域：自己肯定感、幸福感 等》

8	自分には、よいところがあると思う	87.8	85.6
10	将来の夢や目標を持っている	75.7	81.8
15	学校に行くのは楽しいと思う	82.6	85.7
21	普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか	94.8	92.5

本校の調査結果 ※◎（強み）、●課題

◎多くの児童が自分の良いところを感じており、学校生活を前向きに考え、普段の生活の中で幸せを感じています。

●自分の良さはわかっていますが、目標に向かって活動しているときにその良さを生かした経験がさらに必要です。

●学習活動での地域や社会との関わりを通して、自分も社会の一員であるという意識を高めていくことが求められます。

《質問領域：向社会性》

14	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	94.7	95.8
33	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う	77.4	80.1

調査結果を受けて

【学校では】

○児童の興味・関心を大切にし、達成感を味わえるような学習の目標を立て、教師も適切に称賛できるような基準を明確にした授業づくりを進めます。

○赤松をどうよくしたいかを考えていることを自分事として実現に向かうよう、児童へ細かく声をかけ、生活科や総合的な学習の時間での経験を生かせるよう学習活動を進めます。

【ご家庭では】

○家族のコミュニケーションの中で学校での学びについて話題にし、学校での子どもたちのがんばりを大いにほめてください。

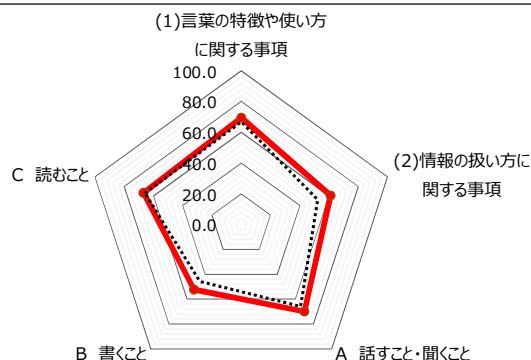
○結果だけでなく、考えたことや挑戦したことにも目を向け、認め励ます声かけをお願いします。

○ご家庭でも、赤松の良さをお子さんと一緒に感じられるように、家族での会話をしたり、イベント参加だけでなく散歩などでも地域とのかかわりをもつ機会を設けてください。

《学習指導要領の内容別 平均正答率》

学習指導要領の内容		平均正答率 (%)	
		本校	全国
知識及び技能	(1)言葉の特徴や使い方に 関する事項	69.5	66.8
	(2)情報の扱い方に 関する事項	61.1	52.3
思考力、 判断力、 表現力 等	A 話すこと・聞くこと	69.9	65.8
	B 書くこと	52.2	45.7
	C 読むこと	66.8	65.9

—●— 平均正答率 (%) 本校 平均正答率 (%) 全国



《問題形式別 平均正答率》

問題形式	平均正答率 (%)	
	本校	全国
選択式	67.8	61.9
短答式	58.0	62.6
記述式	60.6	54.9

結果 ※○(強み)、●課題

◎「記述式」の正答率が高く、全体としておおむね全国平均を上回っています。内容としては、比喩や反復などの表現の工夫に気付いたり、文を引用して自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する力が身についています。

●漢字を文の中で正しく使ったり、文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめることについては課題が見られます。読み手を意識しながら自分の考えを書く活動をさらに充実させる必要があります。

《正答率の高い問題》【強み】

問題 番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
3 一	話や文章の種類とその特徴について理解することができるかどうかをみる	83.2	76.7
1 一	相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えることができるかどうかをみる	81.4	73.9

《正答率の低い問題》【課題】

問題 番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
2 三イ	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる	38.1	45.2
2 一	筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができるかどうかをみる	52.2	57.9

調査結果を受けて

【学校では】

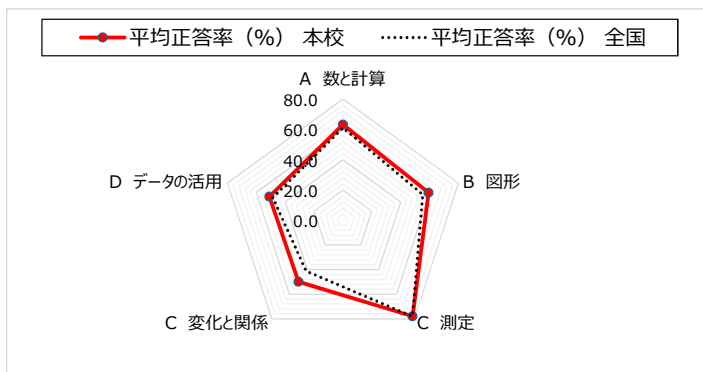
- 新聞など、日ごろから長い文章に触れ合う時間を設定した学習活動を設定します。
- 最初に言いたいことを述べる論述の練習をしたり、自分の考えや自分の経験を踏まえて文章を書いたり、読み手にわかりやすく文章を書く学習活動を充実させます。

【ご家庭では】

- 家庭での対話の機会や時間を積極的につくり、その日の出来事やニュースについて、子どもの気持ちや考えを引き出す機会をぜひつってください。
- 「家読（うちどく：家族での読書習慣）」を行い、読書の後には本について会話する機会をもちましょう。幅広いジャンルの読書をぜひ薦めてください。
- 音読を大切にしていきましょう。音読することで、文章への理解が深まり、要点や意図を捉えることにもつながります。

《学習指導要領の内容別 平均正答率》

学習指導要領の内容	平均正答率 (%)	
	本校	全国
A 数と計算	63.2	61.1
B 図形	59.3	55.3
C 測定	77.9	78.1
C 変化と関係	49.9	41.1
D データの活用	50.9	48.6



《問題形式別 平均正答率》

問題形式	平均正答率 (%)	
	本校	全国
選択式	60.0	56.0
短答式	62.2	59.7
記述式	51.6	48.5

結果 ※◎ (強み)、●課題

◎ おおむね全国平均を上回っています。単位量当たりの大きさや混み具合を判断したり、立方体の体積の計算による求積などの問題について多くの児童が理解できています。

● 記述式については、全国平均を上回っていますが、苦手とする児童も多くいます。答えを求めることに加え、「なぜそうなるのか」を説明したり、複数の考え方を比較したりする力には課題が見られます。自分の考えを相手に伝える経験をさらに積み重ねる必要があります。

《正答率の高い問題》【強み】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
3 (1)	小数が整数と同じ十進位取り記数法の仕組みで表されていることを理解し、条件に合う小数をつくることができるかどうかをみる	93.8	94.5
1 (1)	立方体の体積の計算による求め方について理解しているかどうかをみる	83.2	72.2

《正答率の低い問題》【課題】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
2 (4)	基準量、比較量、割合の関係が正しく表されている図を選ぶことができるかどうかをみる	40.7	34.2
4 (3)	二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができるかどうかをみる	22.1	17.9

調査結果を受けて

【学校では】

- 記述の問題への取り組みを増やし、また、自分の考えを、式や言葉を使って、論理的に書いたり友達に説明したりする学習活動の充実を目指します。
- 自信をもって考えを書けるように、基礎的な知識を身に付けられるような練習問題に取り組ませたり、掲示物などの環境を整えたりします。

【ご家庭では】

- お子さんのドリルやプリント等の宿題の様子やテストをご覧になって、たくさん励ましや称賛の言葉をかけてください。
- 算数を好きにするには、「習ったことが生活の中で使えて、便利だな。おもしろいな。」と思う経験をさせることが有効です。生活場面で算数を使ってみてください。「おかし分けで割り算」「料理で重さ」「お風呂で水のかさ」「買い物で暗算」「折り紙で分数」「家の中で図形探し」など、ちょっと意識するだけで、身の回りには算数を使えるものがたくさんあります。